



(仮称) 柏市子ども・若者総合支援センター 基本設計概要



令和5年 9月

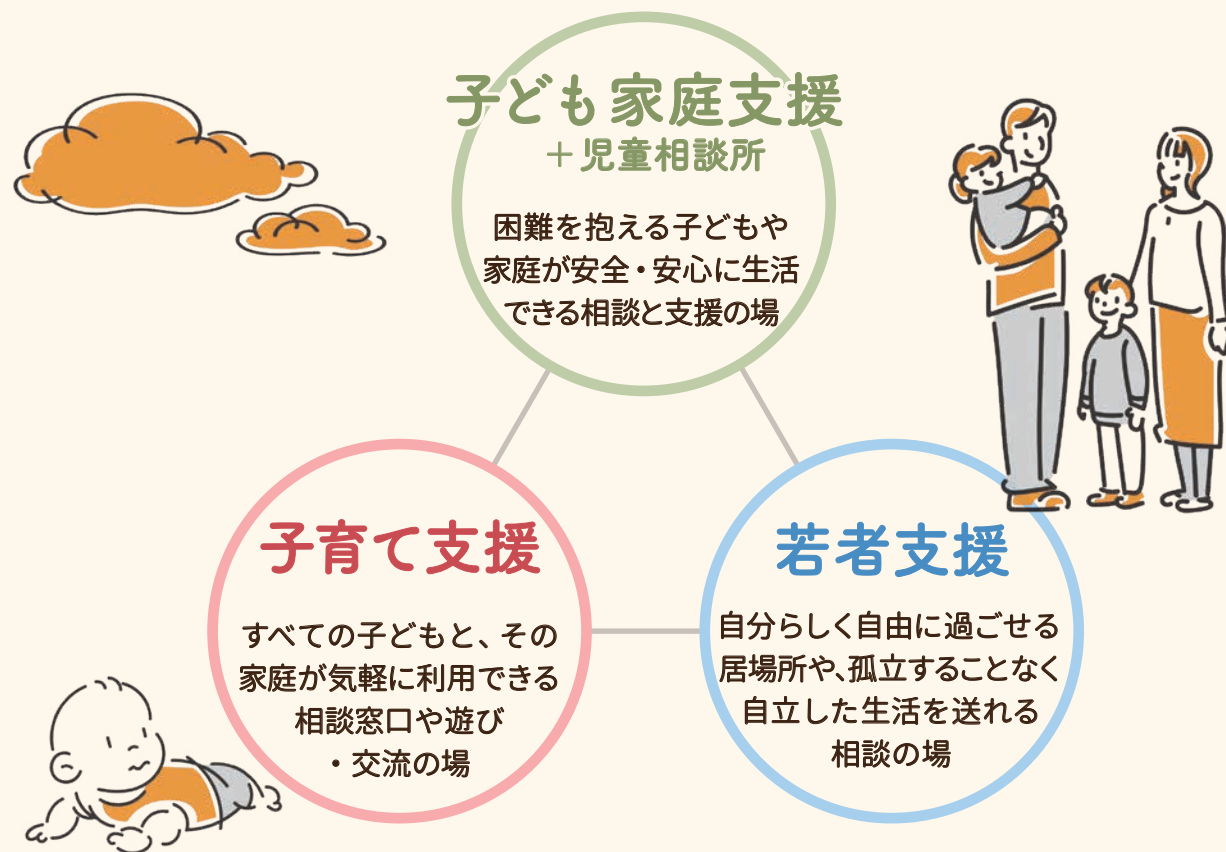


すべての子どもと、若者のみらいのために



子どもや子育て家庭、若者が気軽に訪れ、遊び、交流、相談や支援が受けられる施設

柏市子ども・若者総合支援センター 3つの取り組み



出生から自立まで一貫した切れ目のない支援を提供

あらゆる相談に対応する専門的かつ一体的な相談支援体制

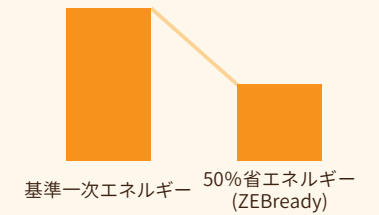
すべての子ども・若者が安全・安心に自由に過ごせる居場所とともに、児童相談所機能のほか、母子保健等の各相談支援機能によって、子どもの成長に合わせて継続的な支援を提供します。

取組	機能	対象	内容
①子育て支援	妊娠子育て相談センター	妊娠中や子育てに関わる方	妊娠、出産、育児、発達等の様々な相談に対応します。また母子健康手帳の発行を行います。
	はくはくひろば	未就学児とその家庭	育児や子育ての不安や孤立、負担感の解消のため、子育て中の親子の交流促進や育児相談等に取り組みます。
②子ども家庭支援	児童相談所	すべての子どもと子育てに関わる方	すべての子どもの様々な相談や支援にワンストップで対応します。必要に応じて子どもの安全・安心を守ります。
	総合相談窓口		
③若者支援	中高生世代の居場所	中高生以上の若者	家庭や学校以外のすべての若者が安全・安心に自分らしく過ごすことができる第三の居場所づくりや、困難を抱えた若者への自立に向けた相談に取り組みます。
	若者の相談居場所		

地球温暖化への配慮

基準一次エネルギー消費量から50%以上消費量を削減した建築物「ZEBready」を目指します。また、太陽光などの再生可能エネルギーを積極的に導入します。

ZEB/ 建物で消費する年間の一次エネルギー収支ゼロを目指す建物



施設整備の7つのポイント

1 安心して相談できる施設

気軽に施設を訪れ声をかけられる総合窓口を設け、様々な相談やプライバシーに配慮した相談スペースを提供します。

2 落ち着いて過ごせる施設

子どもや若者が家庭や学校以外に安全・安心に自分らしく過ごすことができる居場所づくりや、必要な相談や支援に継続して取り組みます。

3 動線を明確にした施設

施設の利用目的に応じた施設内動線を設けることで、利用者の安全・安心やプライバシーを守ります。

4 効率的に活用できる施設

子どもに関するあらゆる相談に対応するため、相談スペースや事務室を集約し、ワンストップで効率的な相談スペース等を設けます。アリーナ等は時間帯で用途を分け、様々な活用の場を提供します。

5 将来を見通した柔軟な施設

こども家庭庁創設や児童福祉法改正、増加する児童虐待等にも対応ができる執務空間や施設機能を設けます。

6 ユニバーサルデザインに配慮した施設

あらゆる子どもや若者が利用しやすい各設備を施設内外に設けます。

7 省エネに配慮した施設

敷地内の緑をできるだけ維持するほか、公共施設の二酸化炭素排出抑制に配慮した施設を整備します。

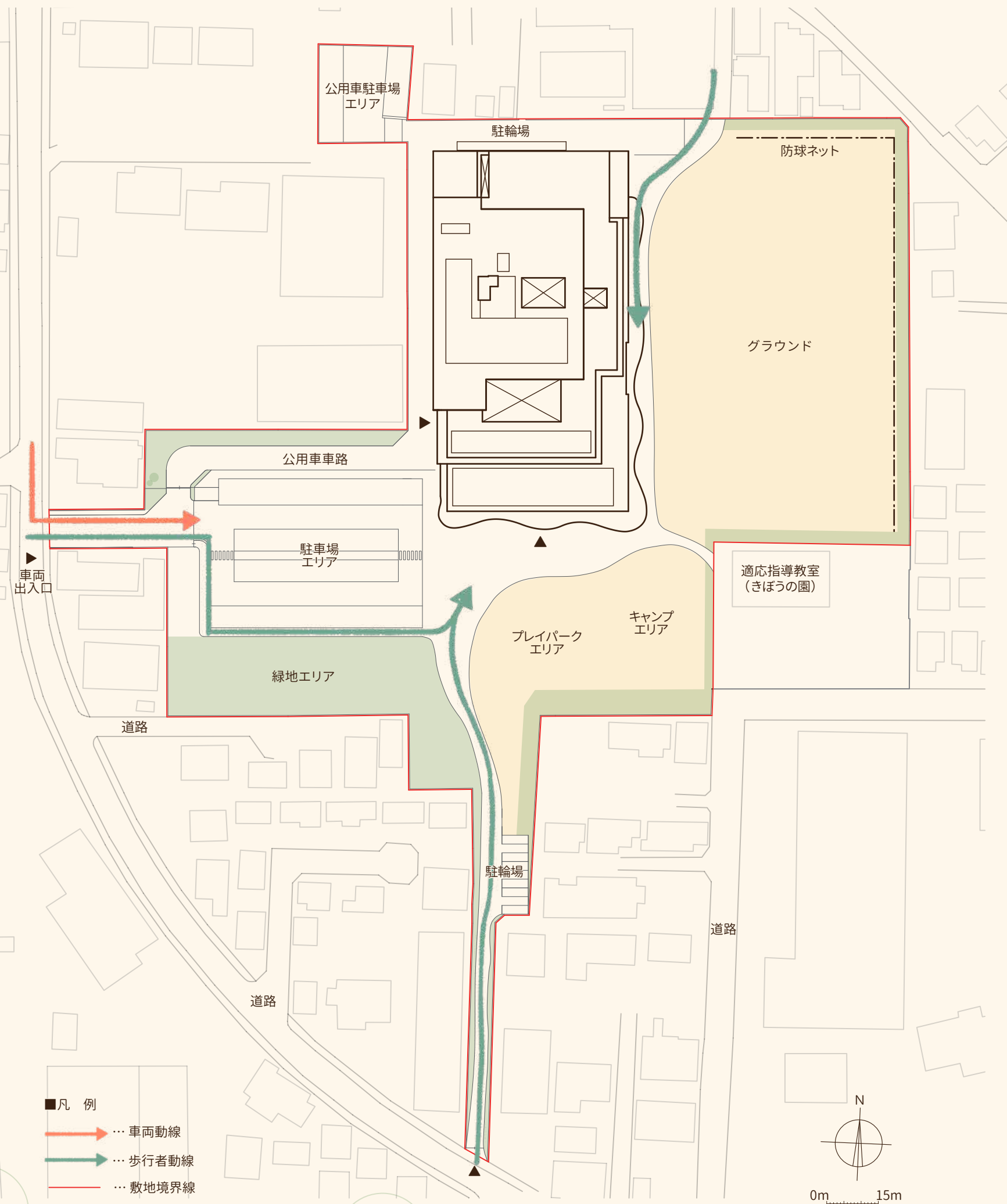
Layout

配置計画

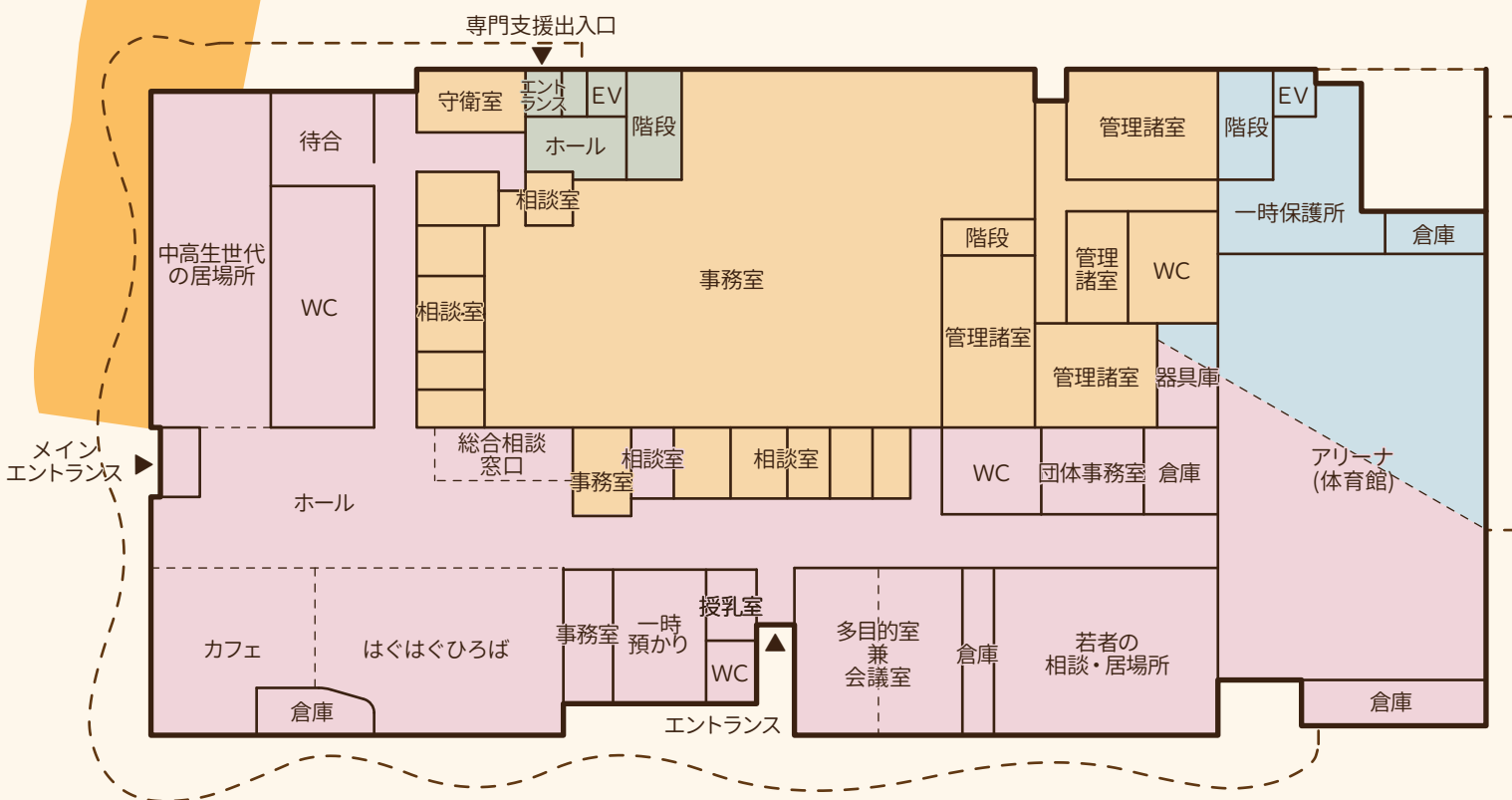


- 既存の青少年センターを建て替え、同機能を包含した「(仮称)柏市子ども・若者総合支援センター」を整備します。
- 建物は地上3階建てとし、上階フロアほど床面積を縮小させ、新たな建物による近隣への圧迫感や日影を抑制します。
- 「駐車場エリア」は約60台収容でき、広めの駐車スペースと建物のアプローチにそれぞれ一部屋根を設け、だれもが利用しやすい設備を整備します。
- 「プレイパークエリア」には、インクルーシブ遊具を設置するなど、すべての子どもや若者に利用しやすい環境を提供します。
- 「緑地エリア」や広大な「グラウンド」をできるだけ維持し、引き続き、地域の憩いの場、子どもたちの遊び場、災害時の避難場所としての役割も担います。

インクルーシブ遊具 / 障がいの有無に関係なく、どんな子どもも遊ぶことができる遊具



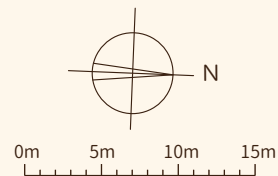
すべての子ども・若者が気軽に相談や遊びに来られる場所



1階平面図

■凡例

- 一般エリア
- 一般相談・管理・職員エリア
- 一時保護所エリア
- 専門支援エリア

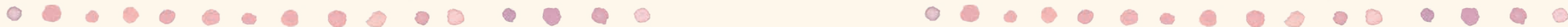


- 開放感のあるメインエントランス付近の「一般エリア」には、すべての子どもやその保護者が利用できる「はぐはぐひろば」「中高生世代の居場所」「カフェ」等の機能を設け、子どもや若者、またその保護者が気軽に訪れ、遊びや交流できる場を提供します。
- メインエントランス正面に「総合相談窓口」を設置し、ワンストップで必要な相談や支援につなげます。
- 「総合相談窓口」周辺に「事務室」や「相談室」を集約し、利用者のあらゆる相談に各専門職が連携して迅速に対応できる環境を整備します。



エントランスホール内装イメージ

- 「一時預かり」の機能を設けて利用者が必要に応じて子どもを預け、安心して相談できる環境を整備します。
- 「アリーナ」や「多目的室兼会議室」では運動や遊び、会議のほか、イベントや子どもに関する講座などを実施できるよう、施設の効率的な活用を図ります。
- 1階には利用者の出入口を複数設け、様々な目的を持った各利用者の安全や安心を守るほか、そのプライバシーに配慮できるよう施設内の動線を明確にします。
- 多くの利用者が訪れる1階は、木を基調にした温かみを感じることができる空間を創出します。



家庭的で安らぎを感じる生活空間

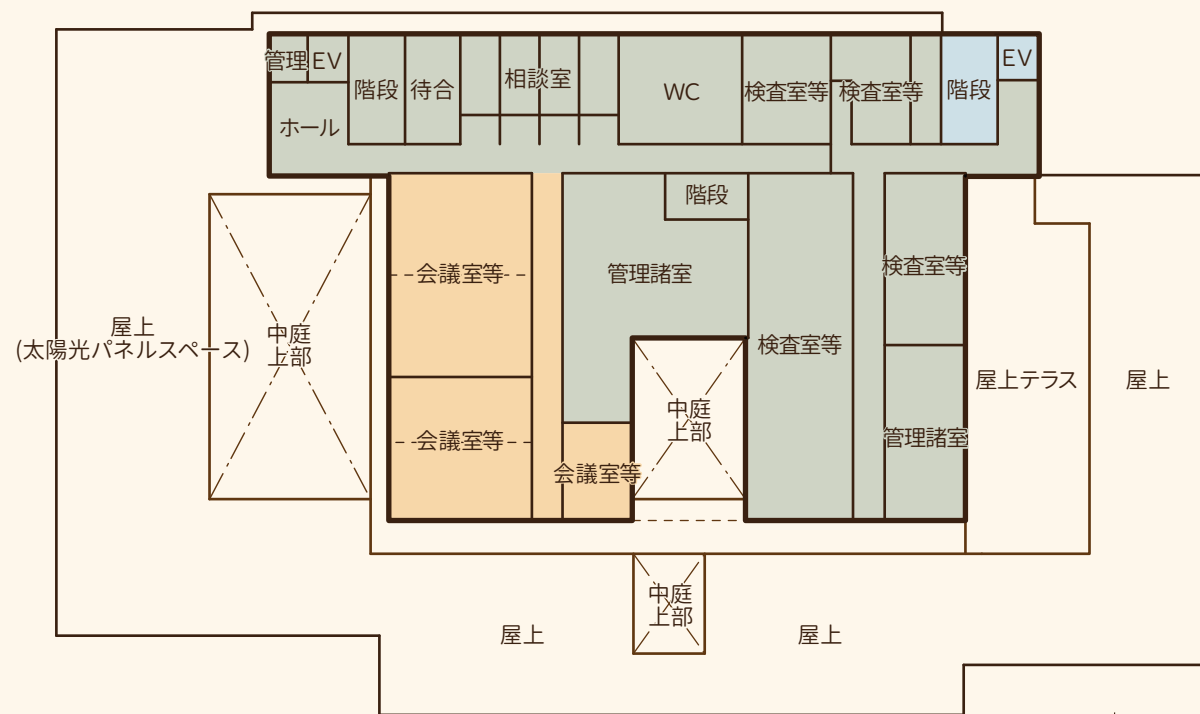
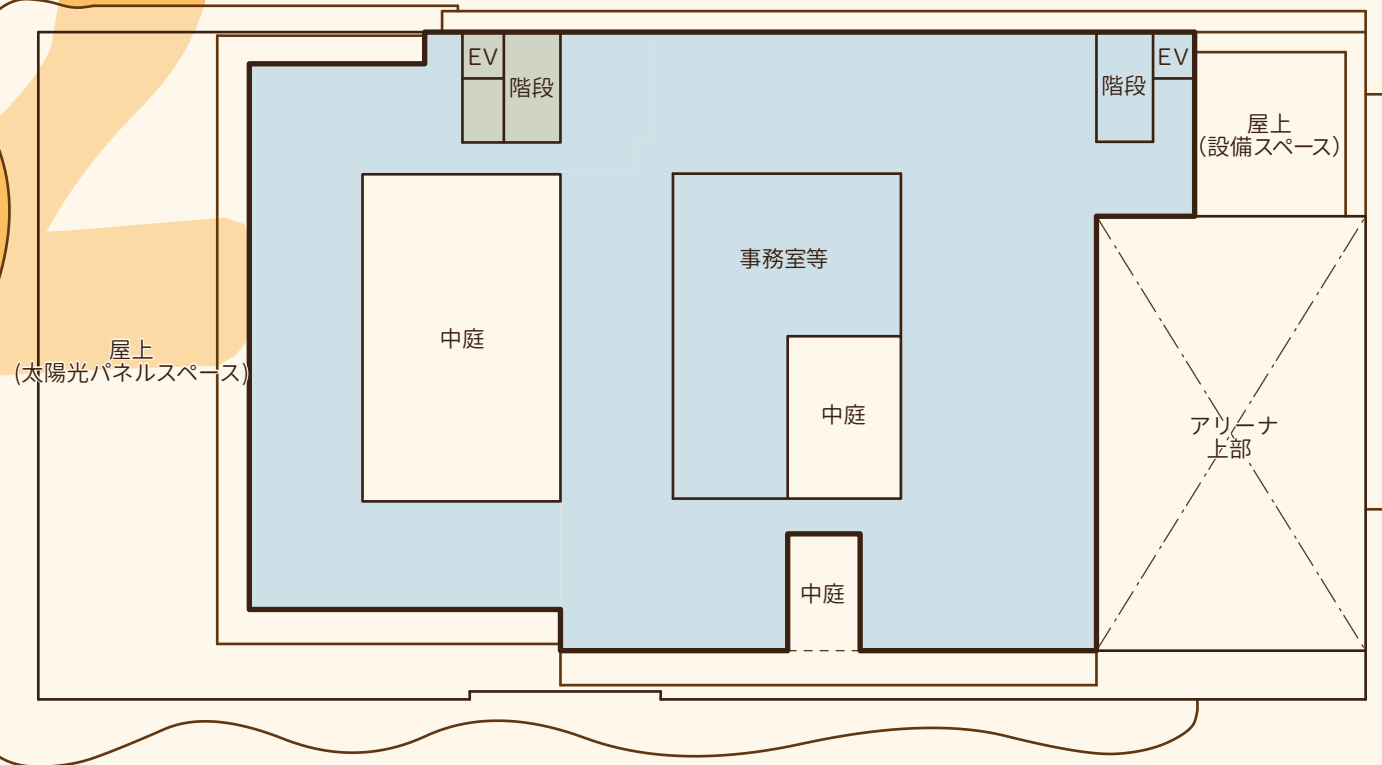
- 2階部分には、様々な事情で保護者から適切な養育を受けられない子どもを一時的に預かる「一時保護所」を併設します。
- フロア内は家庭的な温かみのある空間とし、落ち着いて過ごすことができる個室(兄弟部屋も用意)やくつろげるリビングのほか、食事や入浴、学習(年代ごとに複数)、運動(アリーナや中庭)ができる設備を設け、安心して生活を送れる場を提供します。
- ひとりひとりの子どもと向き合えるよう、職員の事務室はフロア中央に設け、子どもの状況確認や声掛けなどを適切に行っていきます。
- コロナ等の感染症対策のために、フロア内には静養室等を設け、動線を明確にすることで感染防止を図ります。



2階内装イメージ

2階平面図

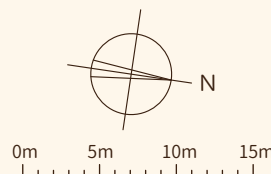
※一時保護所エリアは、子どもの安全性を確保するため、詳細は非公開



3階平面図

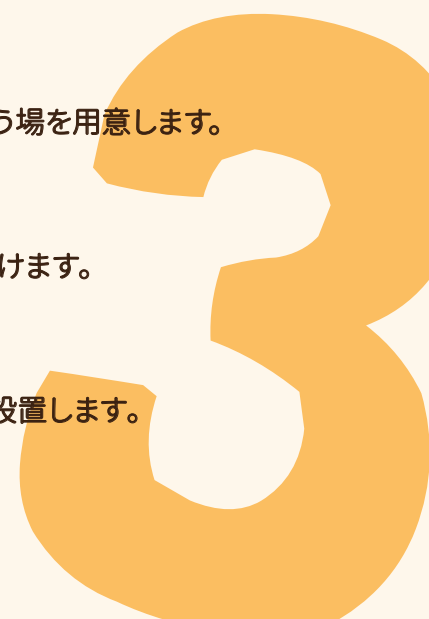
■凡例

- 一般エリア
- 一時保護所エリア
- 一般相談・管理・職員エリア
- 専門支援エリア



明確な動線で安心して相談を行える諸室

- 3階部分には、静かで落ち着いた空間で子どもの心理的な検査や面談を行う場を用意します。
- 子どもや保護者との面談のほか、親子関係を構築するための各諸室を設けます。
- 市内等で子どもや若者を見守る関係機関との相談などを行う会議室等も設置します。



案内図



【建設地】

千葉県柏市十倉二 313-92 (現:青少年センター)

【アクセス】

JR 柏駅西口高島屋前4番のりばより、東武バス『若柴循環』又は『柏の葉キャンパス駅東口』行きに乗車、『庚塚(かのえづか)』バス停下車、徒歩3分

施設概要

敷地面積	: 19,399.93㎡
構造 / 規模	: 鉄筋コンクリート造 地上3階
建築面積	: 4,300 ㎡
延床面積	: 7,120 ㎡
	※建物外部の底の下や倉庫などを含む
概算工事費	: 約53億円
	※工事費は、今後の実施設計段階で変更となる可能性あり

【施設の構成】

一般エリア (1階)	…相談室12室、はぐはぐひろば、中高生世代の居場所、若者の相談・居場所、一時預かり、カフェ、アリーナ(体育館)
一時保護所エリア (2階)	…居室、学習室、食堂 ※一時保護所定員: 25名
一般相談エリア (3階)	…会議室、研修室
専門支援エリア (3階)	…相談室4室、家族療法室、集団面接室、箱庭療法室、心理面談室

事業スケジュール (予定)



柏市 こども部 こども支援室 開設準備担当
〒277-0004 柏市柏下65-1 ウェルネス柏 3階
TEL: 04-7128-5290 / FAX: 04-7162-1077

